

味付けに地元食材大会盛り上げへ役 松陽高生「玉こん」販売

来月2日、能代 アランマーレの試合会場



能代市総合体育館で12月2日にバスケットボール女子Wリーグのアランマーレ秋田がシャンソン化粧品と対戦するのを前に、能代松陽高校（川村寿紀校長）の3年生が物販を企画している。地元開催を盛り上げるのが狙い。校内でアイデア発表会を行い、最優秀賞に玉こんにゃくを販売する提案を選定。2日に会場で販売する予定だ。

3年生46人が6グループに分かれ、9月から物販企画の準備に着手。チームを運営するプレステージ・インターナショナルの社員から助言を受けたり、集客データを分析したりしてアイデアを練り、発表資料作りを進めてきた。

11月7日に発表会を開き、各グループが物販のターゲット層や販売目標、価格設定、利益率を発表。同社社員や同校教員計5人がコンセプトや集客効果、地域貢献度などを基準に審査した。

最優秀賞に選ばれたのは、玉こんにゃくを販売する提案。市特産の白神ねぎや市内の老舗こうじ店のみそを味付けに使い、地元食材の魅力をアピールしている。グループリーダーの畠山響さんは、「企画を一から作ることの大変さを実感した。観客席での食べやすさを考えてアイデアを練ったので、当日は完売を目指したい」と力を込めた。

アランマーレ秋田が高校との連携企画を展開するのは、秋田商業高校（秋田市）に続き2校目。プレステージ・インターナショナルは、業務体験を通じて若者の地元定着や人材育成につなげる考えだ。

審査員を務めた同社秋田BPO渦上ランチの古谷和博プロジェクトリーダー（37）は「高校生ならではの着眼や発想で、面白いアイデアを出してもらえた。今後の企画づくりの刺激になる」と語った。

（加藤龍太郎）

（令和5年11月28日（火）秋田魁新聞より一部抜粋）